

(11) 中学校美術部会

会 長 岸本 和幸 (中村西中)
副会長 岩井 崇通 (西土佐中)
事務局 弘田 幸嗣 (中 村 中)

1. 研究主題 「豊かな感性と創造性を育て、表現力を高める造形教育」

2. 研究経過

実施年月日	研究のあらまし	会場	備考
令和4年 5月6日(木)	四万十市教育研究会 組織総会 内 容「役員選出、研究主題設定、年間計画」	中村南小学校	6名参加
7月29日(金)	第1回 学習会 (講義・作品交流会) 講義内容「絵画などの授業をどう構成するか」 講 師 岸本 和幸 先生 (中村西中) 交流内容「生徒作品を用いての交流」	中村西中学校	6名参加
10月7日(木)	第2回 学習会 (作品交流会・情報共有) 情報共有「研究授業の振り返り」 交流内容「生徒作品を用いての交流」	中村中学校	4名参加

3. 第1回学習会 (講義・作品交流会)

○講義内容「絵画などの授業をどう構成するか」

本会の会長である岸本先生に講話をしていただいた。講話の内容は、「絵画などの授業をどう構成するか」であった。まず、風景画の描き方について、風景画では構図を決める際に近景・中景・遠景が画面の中に入っていると描きやすいことや写真を印刷して活用することで制作を円滑に行えることを教わった。次に、下描きでは大まかに形をとってから細部を描くことや写真の通りに描くことにこだわらず、光や陰影を参考にすること、特に自分が表現したかったことが描けているかがポイントになること。そして、着彩では全ての色をパレットに出し水分量を調節する、筆を寝かし過ぎない、黒は仕上げに使うので途中で使わないことがポイントとなること。さらに、補色を混色すると灰色に近い色になるので、黒を使わずに灰色が作れることなども工夫できる点である。最後に、「水彩画はムラを楽しむ絵である」という言葉は印象に残った言葉である。



○作品交流会

免許外の教員が担当している学校の生徒作品を中心として、美術教員がアドバイスを付箋に書いて貼る支援を行った。さらに、普段の授業でどのように作品づくりを進めているのか等も意見交換した。



4. 第2回学習会（研究授業の振り返り・作品交流会）

幡多造形教育研究会と共催の研究授業の振り返りを行った。今回は、「北斎とゴッホ」として、鑑賞分野であった。Chromebookを活用して、作品の鑑賞やGoogle JamboardやGoogle Formsで協働学習、意見交換をした。ICTを活用することで、一人一人やグループの意見を容易に集約・管理することができるため、生徒の意見を取りこぼす可能性を減らすことができる。また、タブレット端末と投影画面さえあれば全体共有もできることから、教具の準備や時間の短縮などの効果を上げることができるため、これからの筆記用具としてタブレット端末を活用することが一般的になることが期待される。



研究授業の板書写真

5. 今年度の成果と課題

本会の会長であるベテランの教員から講話していただいたことや作品の共有で、教具の工夫や長年培ってきた授業のコツを知ることができ、免許外教員やその他の美術教員に対しても有益な会を開催することができた。